駅を「まちの総合拠点」に
将来まちづくりビジョン

駅東第1土地区画整理事業の進捗などにより、駅東側地域の人口は増加しています。このたび、駅東西それぞれの地域特性を生かし、駅周辺が鏡石町の新たな「まちの総合拠点」となることを目指すまちづくりのため、「鏡石駅周辺のまちづくりビジョン」を策定しました。今月号では、本ビジョンの目的や構成について紹介します。

特性生かし拠点形成

本ビジョンでは、駅周辺地区全体が果たすべき役割や整備課題を整理し、特に東西自由通路や駅東口整備の方針について構想を策定しました。

今後は、このビジョンに基づき、関係各所との協議を重ねるとともに、町民の皆さんの意見を取り入れながら整備を推進していきます。

多様なゾーンの形成

町の第6次総合計画においては、駅東土地区画整理事業の推進と併せ、「鏡石駅東口整備事業」及び「東西自由通路再整備」を推進するものとされています。

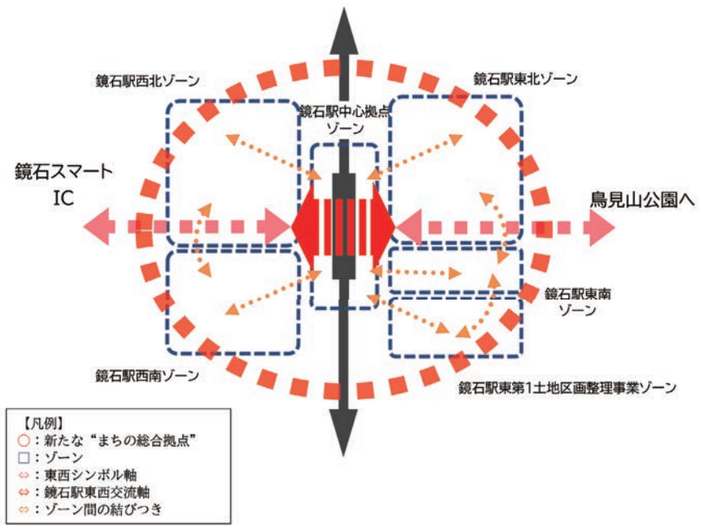
町では、全国の傾向と同様に人口減少傾向にあるものの、鏡石駅周辺エリアにおいては増加傾向にあります。

将来にわたって町の人口を維持し、町の活力を保つためにも、新たな住民を受け入れるための駅周辺の環境整備が必要不可欠です。

駅を中心とした中心拠点ゾーンの駅西側においては駅コミュニティセンター及び鏡石まちの駅「かんかんてらす」の機能強化、駅東側においては先行取得した駅東口広場の効果的な整備、そして、東西の軸をつなぐ東西自由通路について、従前の発想にとらわれない整備を検討し、鏡石駅東西がバランスの取れた発展をすることを目指します。

また、商業や行政機能が立地する北側のゾーン、居住機能の高質化を図るゾーン、新たな居住機能を誘導するゾーン、新たなまちづくりが進展するゾーンなど多様なゾーンの形成とゾーンごとの特性を生かし拠点の形成を図っていきます。

駅を中心に東西ゾーンが一体となる
新たな“まちの総合拠点”の形成



【鏡石駅東西自由通路の整備方針案】

東西自由通路の改修について、下記の通りいくつかの案を検討しています。

①現施設活用案	②現位置近接部架け替え案	③コミュニティセンター北側架け替え案	④コミュニティセンター一体整備案
耐震補強などにより、現在の施設をそのまま活用	現在の位置の少し南側に建設する（ホームへ上がり下がりは一時仮設階段で対応する）	現在の位置の北側に新しい通路を建設する	コミュニティセンターの一部を改築し、2階につながる通路を建設する

【整備スケジュール】

時期	内容
令和7年度～	鉄道事業者（JR東日本）との協議
令和8年度～	国や県との協議
令和7年度～令和11年度	各種計画（各都市計画や整備計画）の見直し
令和12年度以降	駅東口や東西自由通路の設計
令和13年度以降	駅東口や東西自由通路の施工

駅東西自由通路を整備

JR鏡石駅の東西を結ぶ東西交流軸は、鉄道利用者のみでなく、駅東西の人の移動を考え、周辺の各ゾーンを結びつける重要な軸です。

今後、駅東第1土地区画整理事業の進展、駅東エリアの市街化による人口の増加に伴い、その重要性はさらに増すと考えられます。

一方で、現状の東西連絡通路は老朽化が進んでいることや、バリアフリー化が図られていないという問題を抱えています。

そのため、今後は、まちのシンボル軸をつなぐ都市基盤施設として、立地適正化計画を策定し、国の都市構造再編集中支援事業などを活用しながら、東西自由通路を整備し、駅東西をつなぐ歩行者動線を確保できるよう検討していきます。

なお、東西自由通路の整備については、利用状況を十分に調査し、整備効果について適切な判断を行いながら都市計画道路駅中央線との関連性も含め進めていきます。

Interview

一般社団法人かがみいし振興公社
理事長　長田　守弘　さん

町の玄関口でもある駅の構内のかんかんてらすは、これからも利用客が増え、賑わうようになってほしいと思っています。そのためには長年待ち望んでいた駅周辺の整備は必須だと思うので、早急に進めてもらいたいですね。

町区長協議会会長（旭町区区長）
佐藤　壽惠　さん

駅東の人口も増加している一方で交流は希薄になりつつあると思います。困ったときにお互い頼れるようなコミュニティを形成するためにも、駅の西東関係なく多くの町民の交流の場となるよう整備してほしいですね。